

イアコーンサイレージによる耕畜連携事例(岡山県)

表1 イアコーン栽培、収穫概要(R6年度)

取り組み面積	4ha(5ほ場)
栽培品種RM	108
播種日	4月20日
収穫・調製日	7月24日～26日
収穫スピード	約30a/時間
収穫ロール数	1～1.5R/10a
給与量	0.5ロール/日
給与期間	秋～冬

表2 イアコーンサイレージ(ECS)に係る役割分担

畜産農家	酪農	播種、収穫作業委託費(コントラ)
	PMR	ロール移動、PMR給与
耕種農家	加工野菜	種子購入、追肥代、除草剤散布
	キャベツ	

表3 イアコーンサイレージ(ECS)の飼料成分

(%, 水分以外はDM中%)

区分	水分	CP	EE	CA	ADF	NDF	デンプン	TDN
A農場ECS ^{注1)}	45.2	9.4	3.8	1.8	11.0	25.6	55.8	86.3
庄ペントウモロコシ ^{注2)}	14.5	8.8	4.4	1.4	3.6	12.5	—	93.6

注1) R2～R4年度平均値(TDNはR4年度産の推定値)

注2) 日本標準飼料成分表(2009年版)による

表4 乳用牛PMR中の主な飼料増減量 (kg/頭・日)

飼料名		R4年度		
		対照区	試験区	増減
イアコーンサイレージ		—	2.4	2.4
濃厚飼料	配合飼料	8.6	7.4	△1.2
	庄ペントウモロコシ	1.4	1.2	△0.2

表5 ECS給与試験における泌乳成績

年度	区分	乳量 (kg/頭)	乳脂肪 (%)	乳蛋白質 (%)	無脂固形 (%)
平均(R2-R4)	試験区	30.0	3.91	3.38	8.85
	対照区	28.0	3.84	3.38	8.84

表6 イアコーンサイレージ(ECS)のメリット

畜産農家	酪農	安価な国産濃厚飼料による安定経営 付加価値の高い畜産物生産を目指す
耕種農家	加工野菜	茎葉部分「緑肥」による地力改善 連作障害の回避 根が土中に入り込み、排水性の改善



イアコーン専用収穫アタッチメント



トウモロコシの雌穂、雌穂のみ収穫



イアコーンの収穫時期：黄熟期



イアコーンの収穫機とラッピングマシン



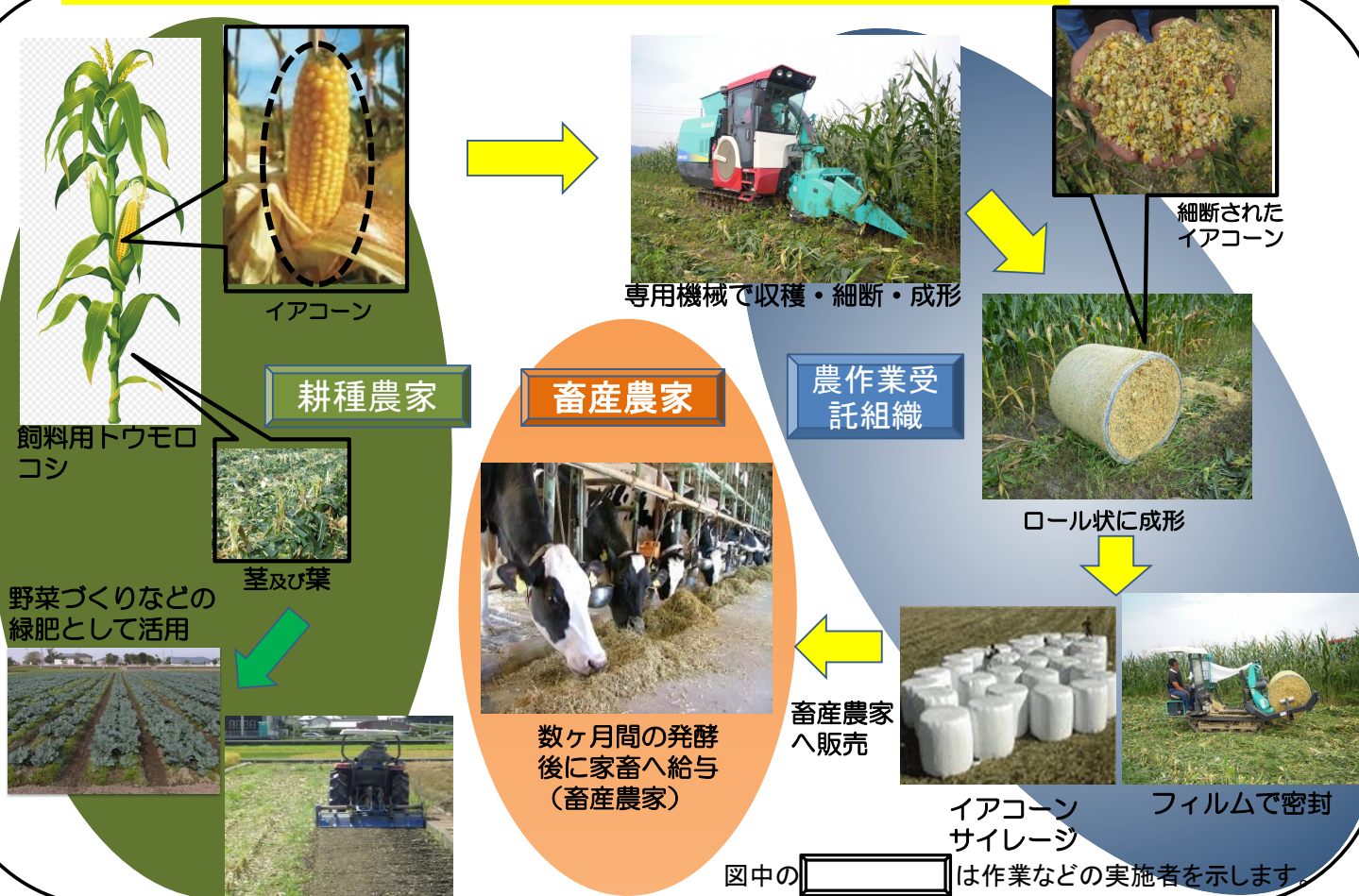
国産濃厚飼料の増産に向けて (耕畜連携によるイアコーンサイレージ生産)

◆約90%を輸入にたよる濃厚飼料※1の国内における安定供給のため、飼料用トウモロコシの子実のみでつくるイアコーンサイレージ※2の生産が北海道を中心に取り組まれています。そこで、岡山県においてもその普及定着に向けた取り組みを行っています。

- ※1 濃厚飼料とは・・・飼料として利用する目的で栽培したとうもろこし、大豆及び大麦などの実を示します。
 ※2 イアコーンとは・・・トウモロコシの茎に付いている子実の形が人の耳（イア）に似ているところからきている言葉です。
 子実、芯、外皮を合わせた部分を示します。
 ※2 サイレージとは・・・トウモロコシや牧草を収穫し、乳酸発酵させて作る牛用の貯蔵飼料のことです。
 （人が食べる「漬け物」のようなものです。）



イアコーンサイレージの作り方とその利用方法！



イアコーンサイレージ生産のメリット

- | | |
|---|--|
| <p>畜産農家</p> <ul style="list-style-type: none"> 国産トウモロコシ飼料による安定的な経営 付加価値の高い畜産物の生産 | <p>耕種農家</p> <ul style="list-style-type: none"> 緑肥による地力の改善 圃場の排水性の改善 |
| <p>消費者</p> <p>安全・安心な農畜産物の安定的な確保</p> | |

普及定着に向けた課題

- 多収品種の活用による生産コストの低減
- 府県向きの小型収穫機械の開発・市販化（現在開発中）
- 家畜への給与効果の確認 など



一部の写真は、共同研究機関である農業技術革新工学研究センター及び徳島県立農林水産総合技術支援センターより提供されたものです。